

第3次前橋市地域福祉活動計画 概要版

協働から共創へ

計画期間 令和8年度～令和12年度



市民が共に目指す地域共生社会の姿

持続可能な「つながり」と「共創」による
地域共生社会の実現

私たちは、前橋市地域福祉計画基本理念「みんなで つながり合い 支え合う 笑顔のまえばし」の実現に向け、第3次前橋市地域福祉活動計画を策定・推進します。

目指すのは、今、市内のあちこちで芽吹き始めている多様な活動を、一時的なイベントで終わらせることなく、地域にしっかりと根付く「文化」へと育てることです。

制度の壁や、世代・立場の違いを越えてつながり合う。

そんな「地域共生」の新しいモデルを、ここ前橋から発信します。

みんなが主役の地域づくり
～「支える・支えられる」の関係を越えて～

これからの地域福祉は、行政や専門職だけで完結するものではありません。

地域住民、社会福祉事業者、NPO、企業、学生など、地域に関わるあらゆる主体が、地域を支える大切な「主役」です。

私たちは、「共創」の視点に立ち、住民一人ひとりを「支援の受け手」ではなく、共に課題を解決し、地域をつくる「パートナー」だと考えます。年齢、国籍、障がいの有無、生活状況といった背景にかかわらず、誰もが自身の強みを生かした「役割」と「活躍の場」を持ち、尊厳を持って参加できる。そんな地域を、共に築いていきます。

地区担当者の役割

地区担当者は、住民組織と専門機関をつなぐ「パイプ役」として地域の福祉活動を推進します。地域に出向いて潜在的な課題を早期に把握し、制度の狭間の課題には「相談・伴走支援」を行います。

また、地域資源を活用した住民主体の地域づくり（サロン活動やボランティア育成等）に対する「連絡調整・後方支援」を行い、活動の持続可能性を高めます。

一人ひとりに寄り添う調整役

コミュニティソーシャルワーカー



制度の狭間に置かれたり、複数の悩みを抱えていたりして、どこに相談すればよいか分からない「個人や世帯」を支援します。

地域をつなぐ調整役

生活支援コーディネーター



住民が住み慣れた地域で元気に暮らし続けられるよう、地域全体の「支え合いの仕組み」を整えます。「生活支援体制整備事業」の中で活動します。

第3次前橋市地域福祉活動計画

令和8年3月発行

社会福祉法人 前橋市社会福祉協議会

〒371-0017 前橋市日吉町2-17-10 K'BIXまえばし福祉会館3階

TEL 027-237-1142（地域福祉係） URL <https://www.mae-shakyo.or.jp/>

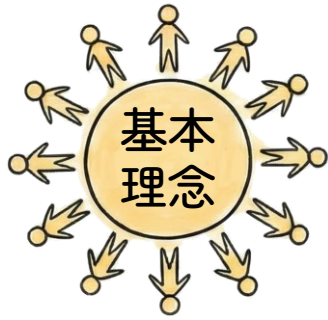


HP



Instagram

第3次前橋市地域福祉活動計画



すべての市民、事業者、行政が地域福祉の推進に取り組み、互いに思いやりを持って行動する

みんなで



年齢、性別、国籍、障がいの有無など、あらゆる違いを超えて互いを尊重し、誰もが自分らしく

つながり合い

活動目標 1 地域づくり



つながりを創出・強化

活動目標 2 参加支援



重点目標

身近な人と顔の見える関係づくり

身近なつながりから始まる地域づくりの基礎として、「顔の見える関係づくり」を推進します。



重点目標

自分らしい社会参加の形を見つける

健康や趣味を通じ楽しみながら地域活動へ参加します。自分らしい社会参加の形を見つけていきます。



自然に集い、人とつながる居場所づくり

地域で、誰もが自然に集い、つながる居場所を整えます。多世代が交わる場を、地域づくりの基盤とします。



誰もが参加しやすい多様な機会の提供

地域へ参加する機会となる活動や研修を充実させます。多世代が交流や社会参加しやすい環境を整えます。



多様な主体が連携する体制づくり

企業やNPO、学校等が地域を通してつながる場を築きます。強みや資源を活かし、地域のため連携・協働し合う体制を整えます。



誰もが社会参加しやすい環境の整備

一人ひとりの想いに合わせた参加の形を地域と共に創ります。誰もが役割を実感し、社会参加できるよう支援します。





日常の小さな変化に気づき、
孤立や不安を抱える人に声をかけ、
寄り添い、必要な支援につなげて

支え合う



前橋への愛着と誇りを共に育み、誰もが
安心して暮らせる

笑顔のまえばし

活動目標3 相談支援



支え合い
をカタチ
にする

活動目標4 生活支援



重点目標

相手を想い、共に考える心を育む

悩みや想いに寄り添う相談支援を大切に、相手を理解し、共に考える心を育みます。



重点目標

目配り、気配り、心配りの関係を広げる

日頃から声のかけ合いや気配りをし合う関係づくりを大切にします。お互いさまの支え合いの輪を広げます。



身近に相談できる場の整備

生活の不安を早めに分かち合い、もっと気軽に話せるように、身近に相談できる場を整備します。



多様な主体と連携した見守りの充実

支援が必要な状況を適切に把握できるように、身近な企業や関係機関等と連携し、見守り体制の充実を図ります。



制度の狭間に応える包括的な連携づくり

公的制度では対応が難しい課題を、関係機関と連携して受け止めます。制度の隙間を埋め、適切な支援につなぎます。

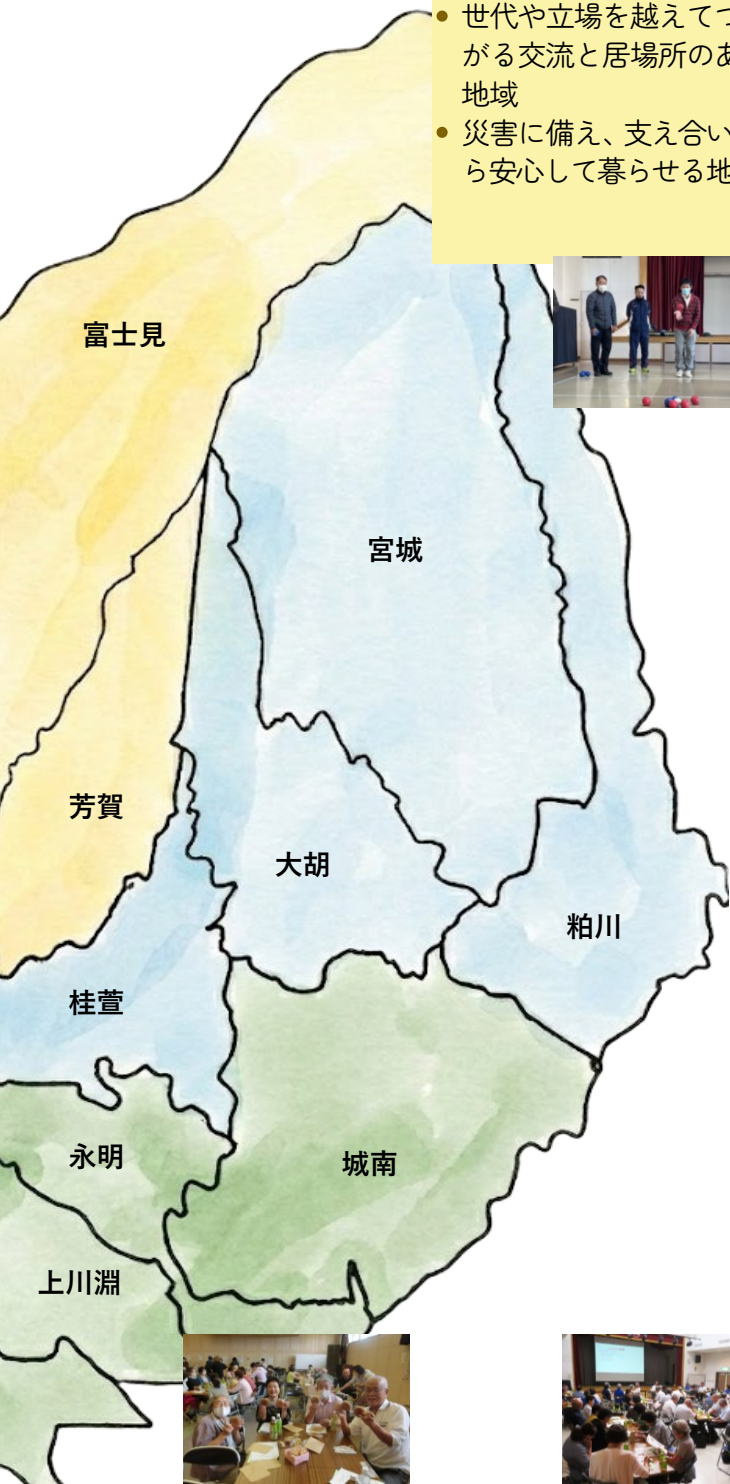


住民主体の助け合いの基盤づくり

すでにある住民同士の助け合いを見える化するとともに、地域の実情に即した支え合いの基盤づくりを支援します。



めざす地区の将来像 (抜粋) ～



南橋地区

- 誰もが気軽に関われる、思いやりと助け合いの地域
- 世代や立場を越えてつながる交流と居場所のある地域
- 災害に備え、支え合いながら安心して暮らせる地域



芳賀地区

- 「全世代が住みよい芳賀地区を目指して」～つながりを生かした助け合いの仕組みづくり～



富士見地区

- 人々が支え合いながら、住み慣れた地域で安心して、自分らしい生活を楽しめる地域
- いつまでも元気に過ごし、介護予防と健康づくりに楽しく取り組む地域
- たくさんの人が気軽に楽しく地域活動に参加できる地域



桂萱地区

- 地域全体で「すみよい桂萱」づくりを目指す



大胡地区

- 住民が互いに支え合い、誰もが安心して楽しく幸せに暮らせる活力ある地域



宮城地区

- 「地域住民が互いに支え合い、安心して暮らせる地域」
- 支え合いのある地域
- つながりのある地域
- さりげない見守りのある地域



粕川地区

- 互いを気にかけて困りごとに寄り添い合える
- 安心して暮らせる地域



上川淵地区

- 若い世代に地域の歴史や文化を継承する地域
- 世代間交流のできる地域
- 気軽に声を掛け合い、見守り、支え合える地域
- 交流の機会や人とつながる機会の増加



下川淵地区

- ～つながろう下川淵～
- 人が集い交流するまち
- 安心安全なまち
- 歴史と文化を大切にするまち
- 住みよい福祉のまち
- 心豊かなまち
- みんなで支え合うまち



永明地区

- みんなでつながる交流の町
- さりげない見守りで安心
- 町の特色を活かす支え合い



城南地区

- 住民が世代を越えてつながり、互いに支え合う
- 居心地のよい楽しい地域



～前橋市地区別地域福祉活動計画

岩神地区

- 自然・文化・福祉が調和する、誰もが暮らしやすい地域
- 多世代がつながる場づくりと住民主体の活動が充実した地域
- 地域ぐるみの見守りと支えあいの実践が進む地域



敷島地区

- 地域と事業所・企業が協力しながら、多世代の交流を深める地域
- IT技術を取り入れた見守りの実践が進む地域
- 若者も高齢者も主体的に活動できる支え合いの地域



中部地区

- 歴史とにぎわいが共存する前橋市の中心エリア
- 地域の伝統を守りながら、大学や商店街、企業、NPOなど多彩な仲間と手を取り合う
- 誰もが安心して暮らせる未来を創り続ける



文京地区

- 「向こう三軒両隣」をモットーに住民同士が気にかけていながら安心して暮らせる
- 幅広い世代が地域活動に継続的に参加し、「お互い様」の関係づくりを意識し合える



若宮地区

- 地域活動が身近に感じられ、次の担い手が育っていくまち
- 日常の声かけや見守りが自然に行き交い、安心して暮らせるまち
- 地域の魅力やつながりを活かし、世代を問わず関わり合えるまち



城東地区

- 自治会活動を通して、住民同士が気軽に交流し合える
- 地域の活動に担い手・参加者として楽しく参加する
- 誰もが住みよい福祉のまち



中川地区

- 地域全体が“三世代家族”のような年齢に関係なく、繋がり支え合える町に
- 住みやすい安全・安心な町に



南部地区

- 充実した見守り体制で顔の見える関係ができる
- 困った時に支え合い、助け合える
- 世代を問わず住民同士が繋がることができる



東地区

- 住民同士が町の枠を超えて、自由に連携・協力し合える東地区
- 地域外の活動者と地域住民がともに地域づくりに取り組める東地区
- 誰もが無理なく関わり続けられる、持続可能な東地区



元総社地区

- 交流を通じて「顔の見える関係」を広げる
- 健康づくりや見守り・支え合いが自然に続く、安心して暮らせる地域を目指す



総社地区

- 世代をつなぎ、誰もが安心して暮らせる、支え合いのあるまち



清里地区

- サロンや地域行事などを通じて交流の輪や健康づくりを広げ、誰もが安心して暮らせる地域を目指す



個人でできること

地域と関わる機会をつくる

- まずはあいさつから、身近な人と「顔見知り」になる
- お試しの気持ちで、地域行事に顔を出す
- 地域の活動に関心を持つ
- 活動の「感じたことや楽しさ」を周囲に伝える
- 自分にできること、楽しめることで参加する
- 学びの場に参加し、知識を深める



ご近所と気にかけてくれる関係をつくる

- あいさつのついでに、小さな変化に目を向ける
- 相手の話を「ゆっくり聞く」
- 困ったときに「助けて」と言える関係を築く
- 日頃から近所で声をかけ合い、気にかけて合う
- できることで、ちょっとした困り事の手助けをする
- 気になることや心配なことを、地域で共有する



地域でできること

場・機会づくりの工夫

- 多世代が「自然に顔を合わせる」機会づくり
- 交流の場に、困りごとを話せる時間を設ける
- 気軽に参加しやすい、開かれた居場所づくり
- 身近で、相談しやすい場を整える

情報発信の工夫

- 困った時の相談先を「繰り返し」周知する
- 地域の情報を「必要な人へ届ける」工夫をする
- 多様な手段を使い分け、相談の「受け皿」を広げる
- 地域の活動を「話題にしたくなる」発信を心がける



市社協が取り組むこと

地域づくり

- 地域住民、法人、団体、企業との連携・協働を強化し、共創を目指す
- 多様な主体が協働できる仕組みづくり
- 地域で活躍する人材の育成



参加支援

- 誰もが参加しやすい地域にするため、お互いを思いやる心を広げます
- 多様な人々が共に活動し、交流する居場所づくり
- サービス利用者が地域とつながれる機会を増やします

連携・協力体制づくり

- 多くの人が「少しずつ協力できる」体制を整える
- 地域の多様な主体が協力できる「見守り体制」の充実
- いざというときの連絡の流れを共有する
- 地域の多様な主体との連携強化



相談支援

- 社会と地域の変化を見据えた相談体制を強化します
- 身寄りのない人や孤立する人への支援体制を確立します

生活支援

- 地域で自分らしく健康的に生活できるように支援を強化する
- 制度で対応できない支援を、住民とともにすすめる仕組みづくり
- 災害時も地域で支え合えるよう、平時からの備えと体制を強化する

計画の推進に向けて

本計画の推進にあたっては、「PDCAサイクル」の考え方にに基づき、進捗管理と評価を行います。毎年度、活動を振り返り、継続的な改善を加えることで、活動の質を高め、計画の達成度を向上させていきます。

評価は、事務局による「内部評価」と、地域住民や専門家の視点を取り入れた「外部評価」を併用します。

成果指標を重視し、「活動により地域がどう良くなったか」という変化を測ることで、計画の効果を検証します。

